

市内でみられる水生植物

水辺や水中に生息している植物は、魚や虫の産卵場所やかくれ場所として、また水の浄化にも役立っています。ここでは、市内でよくみられる水草などを掲載します。



▶ホザキノフサモ◀

茎は円柱状で、一か所から出る葉の数は4枚。鳥の羽のように枝分かれしている。別名をキンギョモという。



▶エビモ◀

全体的に淡い黄緑色で、葉は波状に縮れ、縁はギザギザ。また、葉の先端はとがらずに丸くなっている。



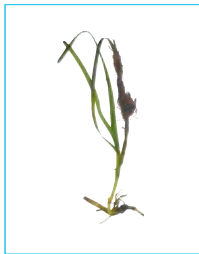
▶ササバモ◀

葉はササによく似ていて、縁が大きく波打っている。葉の先端は急に細くなり鋭くかっている。



▶アイノコイトモ◀

細長い茎と葉を持ち、流水にたなびくように生えている。茎はよく枝分かかれ、葉の幅は約2mm。



▶アマモ◀

海藻ではなく種子植物の仲間。海底が砂や泥のところに生える。初夏には花を咲かせる。アマモ場は魚、貝、エビ・カニなどのすみかとなる。

市内で確認された外来生物

サンフィッシュ科



ブラックバス

親が卵と稚魚を保護し、繁殖力が非常に強いため、移入した場所の生態系に大きな影響を与えることが危惧されている。オオクチバスの俗称。

サンフィッシュ科



ブルーギル

体はだ円形で体高が高く左右に平たくて表面はざらざらしている。体全体に薄い青灰色の横縞がある。日本には1960年に持ち込まれた。

アメリカザリガニ科



アメリカザリガニ

体は暗褐色で、第1〜3脚にハサミをもつ。第1脚は特に強大で多くのトゲがある。1930年にウシガエルのえさとして、アメリカから移植された。

ヌマガメ科



ミシシippアカミミガメ

眼の後方に赤い筋があるのが特徴。幼体の甲羅は緑色に黄色い模様が見られる。ミドリガメと呼ばれることもある。



▶コカナダモ◀

茎は枝分かれが多く、あまり長くない。一か所から出る葉の数は、普通3枚。



▶オオカナダモ◀

茎は太く、円筒形で長く、柔軟。一か所から出る葉の数は、普通4枚。



▶オランダガラシ◀

葉は丸みをおびていて、5月頃に茎の先に白く小さい花を咲かせる。別名をクレンソウという。



▶オオフサモ◀

茎の節から羽のような葉が輪状に生えている。遠くから見ると葉のかたまりが「ふさ」のように見える。

コラム 外来生物とは？

外来生物は、もともとはその地域にいなかった生き物が、人間の活動によって他の地域から入ってきた種をいいます。川崎市内でもアメリカザリガニやミシシippアカミミガメ、ブラックバスやブルーギルなどの外来生物が確認されています。定着した外来生物は、繁殖力から捕食力の強さやその地域の自然環境や生態系を破壊してしまう恐れがあります。ペットや観賞用に飼育している生き物は、最後まで責任をもって飼育するなど、自然も生き物も大切にしましょう。

市内でみられる希少な生きもの

都市化が進む川崎市でも、自然がまだ残された地域があり、今後生息が危ぶまれるような水生動植物がみられます。その中には絶滅のおそれのある野生生物も含まれています。

★絶滅危惧種



メダカ(ミナメダカ)



ホトケドジョウ



カワモスク



★県内絶滅危惧種



ヒシ

★県内準絶滅危惧種



ウグイ



トビハゼ



カマヅカ

準絶滅危惧種とは現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種